

只見ユネスコエコパーク特別セミナー

「海底火山のおきみやげ」

「岩石を知る・楽しむ」

「次世代にたくす」開催



只見公民館において(国研)産業技術総合研究所名誉リサーチャーである青木正博氏を講師に迎え、ユネスコエコパーク特別セミナーが、11月25日に開催されました。聴講者は只見町の公認自然ガイドを含めた約30人で、第一部の講演では、只見町の地質や地層、それらからなる岩石・鉱物についてお話しされ、只見町の地層は1500万年前の海底火山によって



▲講演する青木正博氏



▲講演を聞く参加者

きており、蒲生岳も噴火による流紋岩で形成されていること等を学びました。また町内に多い流紋岩を中心に、実際に町内で採集された岩石標本を用いながら様々な岩石や鉱物についての知識を深めました。

第二部では、岩石お宝鑑定会と子ども達向けに宝探し体験を行いました。

岩石お宝鑑定会では、皆さん自慢のお宝石や、由来不明だった石を持ち寄り青木氏の鑑定と解説を聞きました。「長年の謎が解決した」と、皆さん熱心に質問していらっしやいました。自分で拾ってきた宝物の石を持つてくるお子さんもおりキラキラした目で鑑定を受けていました。

会場で同時開催されたお宝さがし体験は大盛況で、子ども達は砂の中に隠された大きな水晶を見つけて大喜びでした。



▲子ども達に大人気だったお宝さがし体験

セミナーではさらに、近年町内で盗掘などが問題となった只見町産の流紋岩球類中の紫水晶(通称かぐや姫水晶)について言及し、全国で同じような事例を支援している青木氏は「宝石の原料としての価値は低いですが、球の中に水晶が

出来る過程に価値がある」と話され、ネーミングに踊らされることなく乱獲から保護すること、学術調査等を奨励し、住民への還元をはじめ未来を担う青少年の知的好奇心のために活用してほしいと締めくくられました。



▲自分の宝物の石を鑑定してもらう子ども達



▲持ち寄った石の鑑定を聞く参加者

ふるさとの味に触れる 只見中学校「郷土料理教室」



▲皆で協力しながら楽しく郷土料理を作りました

「郷土料理教室」が、只見中1年生（11月16日）と3年生（12月11日）を対象に開かれました。料理教室は、只見町食生活改善推進員（以下、食改）が講師を務め、「笹巻」や「ごく煮」、「さとう豆」の調理実習を行いました。

近年では、郷土料理を作る機会や食べる機会が少なくなってきており、生徒たちははじめて作る郷土料理を、試行錯誤を重ねながら調理しました。生徒は「楽しく作ることができた。味も美味しかったです」と感想を話し、出来上がった郷土料理のおいしさを改めて感じていました。

食改の方からは「もしこれから只見町を離れても、この美味しい味を忘れずにいてほしいです」と伝えられました。

美味しい新そばを堪能

「第5回朝日そばまつり」開催

朝日地区地域づくり委員会が主催する「第5回朝日そばまつり」が11月23日に開かれ、約50人が参加しました。

目黒俊行会長は「美味しいおそばを楽しみながら、楽しいひと時を過ごしてください」と挨拶し、また熊倉そば愛好会の目黒義行さんは「皆さんからそばまつりを楽しみにしている声をいただきました。今日は沢山たべてください」と話しました。



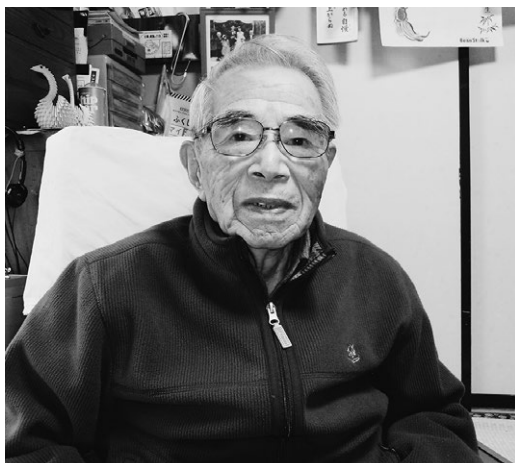
▲新そばに舌鼓を打つ参加者

ブナりん健康ポイント

50ポイント達成 おめでとうございます

関谷一さん（新屋敷）がブナりん健康ポイント50ポイントを達成しました。関谷さんが健康のために気をつけていることは「食事は腹八分目」、「人と会って話をする事」とのことです。これからも長く健康でいてください。

○ブナりん健康ポイント制度…町が主催する健康講座や介護予防教室、各種検診などに参加するとポイントを貰うことができます。ポイント数に応じた特典などがあります。



▲50ポイント達成おめでとうございます

町内各地でクリスマスイベントが行われました!

12月のクリスマスシーズンには、町内各地でクリスマスを楽しむイベントが開催されました。只見地区では山村教育留学生、朝日地区ではケイトリン先生や地域づくり委員会メンバー、明和地区では明和青年団がそれぞれ、サンタクロース姿に扮するなどし、子どもたちにプレゼントを届けました。



▲サンタさんからプレゼントを受け取る子どもたちや、ビンゴ大会、プレゼント交換会を楽しむ子どもたちの様子（朝日地区）



▲クリスマスカードを用意したり、プレゼントを届けたりした山村教育留学生（只見地区）

▲子どもたちに笑顔とプレゼントを届けた明和青年団（明和地区）

かるがもクラブや只見高校、また町民団体等によるクリスマスイベントも実施され、町内に彩を添えました。



▲かるがもクラブにはちびっこサンタもいました



▲只見線くろすひるずは、只見駅をクリスマス仕様に飾り付けました



▲只見線広場ではクリスマスマーケットが開かれ、マトンケバブカフェでは経木クリスマスオーナメント作りが行われました



▲只見高校ではオペラ歌手樋口達哉さん、ピアノ伴奏金井信さんによるクリスマスリサイタルが行われました

町内3保育所にもサンタさんがやってきました!

町内3保育所では、それぞれクリスマス会が開かれ、子どもたちは、クリスマスソングを歌ったり、さくら組の女の子が扮する火の子と一緒に約束事をしたりしました。最後にプレゼントを届けにきたサンタクロースと一緒に記念写真を撮るなどして、クリスマス会を楽しみました。

只見保育所
(12月7日)



朝日保育所
(12月13日)



明和保育所
(12月8日)



只見線と地域資源を生かして

「只見線全国高校生サミット」只見高校生が参加



▲左から目黒琳太郎さん、新國蒼空さん、高橋雷さん

高校生がJR只見線の利活用や地域課題について考える「第2回只見線全国高校生サミット」のプレゼンテーション大会は12月10日に会津若松市の福島県立博物館で開催され、只見高校を含め、全国から6校が参加しました。

只見高校は、田子倉ダムの活用を絡め、田子倉湖畔レストランのリニューアルや渡し舟などを提案しました。

高橋雷さんは「只見線が若い世代にも身近な存在になって欲しいです」と話しました。

第35回子供型空手道選手権大会

神居塾只見同好会・菅家賢心くんが第3位入賞

東日本各地から参加者が集まる「第35回子供型空手道選手権大会 低学年の部」で菅家賢心くん（只見小3年／神居塾只見同好会）が、第3位に入賞しました。

賢心くんは「緊張よりも頑張るぞという気持ちで、型を演じている時は、集中できていました。4月の県大会では優勝目指して頑張ります」と次の大会への意気込みを話しました。

賢心くんが所属する日本空手道神居塾只見同好会では、会員を募集中です。見学やお試し参加もできますので、興味のある方は下記までご連絡ください。

問合せ：TEL 090-8842-5770

（神居塾只見同好会責任者：三瓶）



▲実際に型を披露してくれた菅家賢心くん

第27回ボランティア・スピリット・アワード

角田杏さん 最高賞・文部科学大臣賞を受賞



▲文部科学大臣賞を受賞した角田杏さん

地域のため、社会のため、誰かのために自ら行動を起こしている中学生・高校生を称える「ボランティア・スピリット・アワード」の全国表彰式が12月17日に開催され、角田杏さん（只見中1年）が文部科学大臣賞を受賞しました。

また21日に役場で開かれた受賞報告会で、杏さんは「最初は家族のイベントだったのが、次第に大きくなりました。沿線住民のマイレール意識が必要になってくると思うので、これからも頑張りたいです。世界一応援される鉄道只見線を目指したいです」と意欲と関係者への感謝を伝えました。

只見町の民具に注目が集まる

新国勇氏が只見町の民具を紹介



▲モデル事例として報告をする新国勇氏

国立文化財機構・東京文化財研究所は、無形民俗文化財研究協議会「民具を継承する—安易な廃棄を防ぐために—」を12月8日に、東京都上野の同研究所で開催し、全国から博物館関係者や研究者など210人が集まりました。

協議会ではモデル事例として、新国勇氏（ただみ・モノとくらしのミュージアム運営協議会長）が「愛ラブ民具—福島県只見町の歩みとこれから」と題して、60年におよぶ民具収集・整理の歴史やユッコギを製作する町民の様子を報告しました。関係者からは、熱心な質疑応答が行われ、報告は注目を集めました。

また、昨年11月には、日本民具学会の定期大会が季の郷湯ら里で開催されるなど、只見町は「民具の聖地」としての評価が高まっています。

コミュニケーションの大切さを学ぶ

朝日小で「演劇ゲームでもっと!グッと!コミュニケーション」開催

朝日小学校は、全校生を対象にワークショップ「演劇ゲームでもっと!グッと!コミュニケーション」を行いました。講師として「しらかわ演劇塾」の十文字律子代表、和知健明副代表、和知澄子副代表が来校しました。

ワークショップで児童は、グループを作り名前を呼びキャッチボールをしたり、2人組をつくり出されたお題を相談せずに全身を使って表現したりしました。

最後には、お題として出された物語を、セリフ無しの全身の表現だけで伝える「サイレント物語当たるかなゲーム」が行われ、ワークショップを通して、体を動かしながら表現の仕方や楽しさ、コミュニケーションの大切さを学びました。



▲セリフ無しで物語を伝えるために試行錯誤する児童

献血回数70回以上の功績を称える

大竹やいさん銀色有功章を受章



▲「銀色有功章」を受章した大竹やいさん

大竹やいさん（梁取）が、献血回数70回に到達した方に贈られる「銀色有功章」を受章し、日本赤十字社から、表彰状と記念品のガラス杯が贈られました。

日本赤十字社は継続的に献血へご協力された方への感謝とその功勞に対して、表彰（顕彰）を行っています。献血回数の確認は献血カードまたは献血手帳で確認できます。

今年度の町内における献血車でのご献血は終了しましたが、県内の献血ルーム等では献血を行うことができます。また、来年度も町内での献血車による献血は実施予定ですので、引き続きご協力をお願いいたします。